

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	日本国憲法 (Constitution of Japan)		
ナンバリングコード	A20601	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎科目 / 標準レベル 憲法科目
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期・後期(経営経済学部のみ)
必修・選択区分	選択		
授業コード	A023851	クラス名	-
担当教員名	松下 乾次		
履修上の注意、 履修条件	教員免許を取得するためには必修です。そのほか、とくにありません。 配付資料を必ず持参して下さい。授業の内容の概要、キーワードをスライドに出します。これらを参考にしてノートを作して下さい。		
教科書	未定		
参考文献及び指定図書	長谷部恭男『憲法 第6版』(新世社)、芦部信喜『憲法 第4版』(岩波書店)、樋口陽一『四訂 憲法入門』(勁草書房)。その他、講義の中で指示します。		
関連科目	法律の関連科目。その他、財政、地方財政、社会保障関係の科目。		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	日本国憲法は日本国の根本法です。日本国の「国のかたち」がそこには示されています。国家がなすべきこと、何が国家の政策において最重要であるかを示しています。また、日本国憲法は、我々の日常生活とも深く関係しています。すでに高校までに大方の内容は学習してきたと思います。大学の教養課程における日本国憲法の講義では、具体的な問題(事例)に言及しながら、いかに我々国民・市民にとって深く関わる法であるかを認識してもらうとともに、近代憲法が掲げる思想(近代立憲主義: 平和の構築、権力分立、人権尊重)とその背景を理解する中で、現代そして21世紀の社会(国際社会)の課題を考えてもらいます。 憲法改正が政治日程に上るようになったこともあり、国会での議論を踏まえ、改正の主要論点とその問題点を考える。
授業の概要	近代の憲法の意義と歴史をしっかりと理解してもらいます。日本国憲法に関しては、戦後政治との関係で、憲法の現実を踏まえて見ていきます。憲法の重要な事柄として、基本的人権はとくに具体的判例、最近の事件からしっかりと学習してもらいます。それから、国会、内閣、裁判所、地方自治について、国の基本的な仕組みが今日様々な改革でどう変わろうとしているのかを見ていきます。憲法改正の議論の俎上になっている論点は、随時取り上げる。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 該当なし
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	憲法の歴史的意義を理解し、かつ市民生活に身近なものであることを理解し、関心を持つ。社会に出てからも、自発的に学習するまでになっている。		10点	
【知識・理解】	現代の憲法を理解するのに重要な用語を理解している。これを基礎に、活用して問題解決を図る姿勢がみられる。	70点		
【技能・表現・コミュニケーション】	現代の憲法問題について(特に改正の議論となっている問題)、簡潔にその論点を説明できる。	10点		
【思考・判断・創造】	現代の憲法問題について、その主要問題について論理的に考えることができる。改正が議論されている問題で、自分の意見がまとめられる。そして、課題を解決する力を持つ。		10点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
<p>期末試験では日本国憲法の理論体系及びキーワードを理解していれば、80点。 2回のレポート=主要論点の記述式問題で、20点。レポートの締め切りは厳守する。締め切り後解説を渡し、授業で講評する。</p> <p>S評価には、予習復習、とくに復習では毎回の授業内容の主要な内容をノートにまとめて提出することが必要である。S評価でなくても、提出されたノートがよくできていれば、最終評価に加点するので、ノート提出を推奨する。</p>				

○その他
欠席した場合は、講義資料等を参照し自習する。これをノートにまとめて提出します。その場合に、公欠を認定します。遅刻、早退も同様です。

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名：日本国憲法 (Constitution of Japan) 担当教員：松下 乾次	授業コード：A023851
学修内容		
1. 憲法とは 具体的事例を通して、憲法がわれわれの生活に具体的にいかかわることを理解する。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.1-4を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
2. 憲法の意義と歴史 近代社会の形成と憲法の実在意義を考える。「近代立憲主義」の原理の背景と内容を理解してもらいます。同原理の背景にある社会契約説(ホブズ、ロックとルソー)、そしてモンテスキューの権力分立論、アメリカ独立宣言を見ていきます。外見的立憲主義とされる明治憲法と日本国憲法の異同を見ます。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.5-10を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
3. 憲法の効力、現代立憲主義 最高法規としての憲法の効力。国際社会との関係で憲法の効力(憲法と条約)。人権の国際化。司法裁判所による違憲立法審査権(法の支配)。憲法改正手続。公務員の憲法遵守義務。以上を学習します。憲法の解釈における司法の役割と政府解釈について、考えます(戦前明治憲法と日本国憲法)。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.11-14を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
4. 日本国憲法と戦後政治 日本国憲法の成立とその後の問題を、戦後史の中で学習します。憲法は政治と深く関わる法です。憲法の理想と憲法現実を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.15-21を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
5. 日本国憲法と国際貢献—1 平和主義・戦争放棄と現在の日本の課題、国際貢献の課題を、戦後の日本の安全保障政策の文脈の中で考えて生きます。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.22-29を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
6. 日本国憲法と国際貢献—2 2015年7月閣議決定以降の日本の安全保障政策を見ていきます。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.30-34を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
7. 日本国憲法の統治原理 権力分立、国民権と象徴天皇制、民主政治(法の支配、議会、政党、地方自治)を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.35-40を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。レポート課題「立憲主義」を提出。		(約2.0h)
8. 基本的人権の意義と種別・人権の享有主体および私人間効力 基本的人権の生成の歴史、そして今日の人権の種別、国際的な人権の展開を学習します。グローバル化の中で外国人の人権保障と実際の法政策を学習します。また、人権規定の私人間効力を学習します。これは巨大法人の出現に伴い法人・団体内部における人権保障が求められる問題です。レポートの解説と講評を行います。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.41-49を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)

○授業計画	科目名：日本国憲法 (Constitution of Japan) 担当教員：松下 乾次	授業コード：A023851
学修内容		
9. 包括的人権および私人間効力 基本的人権の中で、平等権と幸福追求権、個人の尊重という総論的な規定を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.50-61を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
10. 民主社会と精神的自由権、人身の自由および国務請求権—1 近代の民主社会(国民権)の形成の中で、必須の人権として展開してきた、精神的自由を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.62-78を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
11. 民主社会と精神的自由権、人身の自由および国務請求権—2 刑事手続等の人身の自由、参政権等の国務請求権を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.79-84を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
12. 経済的自由権および社会権 近代の自由な市場の形成に必須の経済的自由、そしてその修正ともいえる労働基本権等の社会権を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.85-95を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。レポート課題「基本的人権」を提出。		(約2.0h)
13. 国会および内閣 権力分立と各国の民主的な政治体制の現状、そして日本の国会・内閣の制度及び課題(改革)を学習します。レポートの解説と講評を行います。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.96-105を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
14. 裁判所と司法改革 国民の人権を救済する場(憲法の番人)としての司法裁判所の制度とその課題(司法改革)を学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.106-109を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
15. 地方自治 憲法の理念としての地方自治の現実、そして現在の課題を憲法、地方自治法から学習します。		
予習：配付された講義資料(冊子)p.110-115を予習。		(約2.0h)
復習：スライド(板書)を参考に、ノートにまとめる。		(約2.0h)
16. 期末試験 キーワードについての理解度をチェックします。		
予習：		
復習：		